

農林水産業編



令和6年度第5回地方創生ストリートミーティング 開催レポート



地域の暮らしを支える基幹産業である農林水産業ですが、担い手不足や高齢化、気候変動など多くの課題に直面している現状があります。

これからの農林水産業の成長や発展に必要なだということについて、ご意見をいただきました。

■ 開催概要

日 時：2024年11月27日(水) 19:00-20:00

会 場：鳥取麒麟square2階多目的室2・3

参加者：市長、農林水産部長、農林水産業に携わる方7名

【テーマ1】若者就業者を増やすためには

【農業：魅力発信・支援】

- ・ 農業の魅力を伝えていくことが重要。生き物を育てることは難しいが、失敗や成功も楽しさのひとつ。会社員とは違い、スケジュールを自分で決められるのも魅力としてアピールできる。
- ・ 若者を増やすためにUターン者への支援を検討してほしい。島根県安来市では1泊2日の農業体験をし、就農を検討する支援プログラムがある。専業農家や半農半Xという前職を続けながらの就農にも補助金を交付している。
- ・ 農林水産業は3K産業と言われ、魅力を発信しても伝わりにくいため実際に体験し、受入体制を整えていけば外から来る人も増えるのではないかと。前職を生かして農業をされている方もおり、プログラム化し受入を行うことで、若者も取り組みやすいのではないかと。思う。
- ・ 国府町にはふるさと就農舎がありUターンの若者が入ってきたが、就農支援制度に少し問題があり、制度が逆に足枷になっているように思える。専業農家としての支援だけではなく、兼業農家、半農半Xに対しての支援制度もよいと思う。
- ・ 認定農業者として認定されるには、就農する日数が250日以上という厳しい条件がある。そこも見直す必要があるのではないかと。
- ・ Uターン者だけでなく、親元や地元で就農する人に対しての支援があっても良いのではないかと。
- ・ 農業をしたくても支援制度が利用できない場合もある。就農希望者への聞き取りを行い、活用できる支援制度を示したり、支援制度をブラッシュアップしてもよいと思う。

【漁業：魅力発信・支援】

- ・ 漁業経営開始円滑化事業を利用して3年間研修を受けたが、習ったことは一人でできる漁ではなく、昔ながらの人員が複数人必要なやり方だった。少人数でもできる方法や、正しい道具・やり方を教えてもらえれば、Uターン者、少数で漁をしたいと思っている人でも稼ぐことができるのではないかと。
- ・ 漁が上手な人同士では情報交換をし技術を教え合っているため水揚げ量上がるが、それ以外の人には教えてもらえないので水揚げ量が上がらない。指導する側にもメリットがあるような仕組みを作っていけばもっと就業につながるのではないかと。思う。

【林業：魅力発信・支援】

- ・ 林業は機械化が進み、若手の就業者が増えてきている。行政の補助もあり就業しやすい環境となっており、他業種からの転職者もいる。
- ・ 若手を増やすには、給料はもちろん福利厚生も充実させることが必要。また、Uターン者だけでなく、地元にもやりたいと思っている人はいるかもしれないが、情報が届いていない可能性もあるので積極的な情報発信をしていく必要がある。
- ・ 林業には植林や間伐など山の環境を良くして土砂災害等の発生を抑制する役割もある。こうした仕事内容や魅力を知ってもらうことが重要だと思う。

REPORTS

- 自然相手だと難しいところもあるが、それがやりがいであることもある。制度については、仕組みを考えていかなければならない。国としても農林水産業は大事に引き継いでいかないといけないという思いがあるため、現場の方の声を国に伝えていくことが重要。
- 農業をやってみようと思ってもらうために専業農家だけではなく、兼業農家など、様々な選択肢やプランを示していくことが必要。
- 農林水産業に従事されている方の情報交換の場が必要であり、悩み相談や培ってきた技術や経験を世代間で伝えていくことも大切。情報共有やPRを行っていく必要がある。
- 事業の円滑化・技術の継承のためには、指導者側にもメリットがある制度を設けることが必要。
- 林業は支援制度のほか、県産材や地元産材を使うような仕組みを作っていく必要もあると思う。
- 鳥取市は総面積の7割程度である54,000haが森林となっている。これをいかに活用していくかが鳥取市の大きな課題。支援策を検討し、若い世代へ魅力を伝え、PRしていくことが大切。

【テーマ2】 継続して就業していくためには

【販売力を身につける】

- 研修内容は生産のことが中心で販売については弱い。販売や利益の出し方についてセミナー等があると良い。出口戦略についてサポートがあると、継続して就農できる方が増えるのではないかな。
- 農業、漁業は1次産業だが、生産したものを加工して売ることによって6次産業となる。販売力がある人はブランド力や味などを工夫し利益を出す、販売力がない人は良いものを生産しても儲かっていない。
- 生産者が自身で販売戦略を考えるのは難しい部分もあり、生産者と消費者をつなぐ販売戦略が必要と思う。戦略を考えたり、高値で売るために付加価値をつけたりということになるかもしれない。

【販路開拓】

- 海外輸出により、安定した就業につなげることはできないか。海外では食料不足の国もあるため、需要がある国に供給することはできないか。輸出における需要供給のバランスを見ながら、継続的に安定した収入を得られるようなことはできないか。
- 国内消費だけではなく、海外も視野に入れることは価格の安定に関して必要なことだと思う。また、おいしい魚を食べていただくためにPRし、販路を開拓していくことも必要だと思う。

【相談場所】

- 仕事で失敗し、メンタル不調により仕事を辞めてしまう若者が多い。悩んだときに同じぐらいの経験年数の方と話せると気持ちが楽になるため、継続して就業するためにはそのような環境が必要。
- 分野が違う人とでも、悩みを話し合うことで気が楽になり、続けられるというのはとても大事なことだと思う。
- 農林水産業は基幹産業、重要産業である。社会の変化や気候変動など、時代に合ったやり方や支援制度を考えていく必要がある。

REPORTS

【デジタル技術の活用について】

- ・ 経験や勘に見える化したものがスマート農業だと思うが、導入費用が高額であり、パソコンを使うため管理等が難しい。
- 👤 スマート農業は、デジタル技術を活用した省力化や、経験値をデータ化し農業の技術を引き継いでいくものなど様々あるが、導入も簡単にはいかない部分もある。

【技術を教える人にメリットのある制度要望】

- ・ 教える人のメリットが制度としてあれば良いのではないかと。みんなが同じように儲かり始めると自分の経営が失われる可能性があり、地域社会の農業の発展までとはいかないと思う。
- ・ 国や県、市は上手に栽培する農家がたくさんあったほうが良いと考えるが、生産者としてはライバルが少ない方が儲かると考える。そのギャップを埋める方法を考えてほしい。

【鳥取の農業のあり方】

- ・ 必ずしも農業を大規模化すれば良いものでもないと思う。大規模農家がなくなった場合、広大な農地が荒れてしまうため、中規模農家を増やしていく方が良いのではないかと。
- ・ 外国のような大規模農業は、中山間地域である鳥取ではできない。鳥取の農業はガラパゴス化していると言われるが、ガラパゴス化して特異性を出した方が生き残れる。
- 👤 国は農地の集積化や、農業法人化などの戦略を進めている。地域性を考えると鳥取市は大規模農家はマッチしていないのかもしれない。中規模農家や兼業農家が頑張っていけるような仕組みを考えることも必要。また、兼業農家や先祖から引き継いだ農地を荒らさないために農業をしている人もおり、そうした方も継続できるような方法を考えることも必要。

【林業について】

- ・ 技術を継承しないと命に関わることもある。「見て覚えろ」という時代ではなく、しっかり指導していくことが大前提であるため、若者も入ってきやすい業種だと思う。
- ・ 山がないと水も空気も、良い米や魚も捕れない。農業や漁業を守っているという自負もあり、林業の地位を守り高めていくと同時に、理解してもらうことも重要だと思う。
- ・ 林業は一人ではできない。機械化している部分が多く設備投資への補助も必要となるため、独立しようという人はほぼおらず、どこかの事業体へ属している人が多い。

(おわりに)

- 👤 本日は、気づかされた点、納得させられる点が多々あった。できるだけ形にして、事業化・制度化していきたい。鳥取市だけでは難しい部分については農林水産省へ要望もしていきたい。農林水産業は鳥取市の大切な基幹産業であるため、皆様にはますます活躍してほしい。